

沼田市ゆかりの芸術家 ～ 蘇るアーティスト事業・第4弾 ～

高沢圭一展



(『紋小』沼田市中央公民館所蔵)

【展覧会】 会期：平成30年9月7日(金)～9月13日(木)
10時～17時

会場：沼田市中央公民館3階 第1・第2講義室

【講演会】 日時：平成30年9月9日(日)14時～

会場：沼田市中央公民館4階ホール

講師：岡部 昌幸さん(群馬県立近代美術館 館長)

定員：200名(当日先着順)

※定員に達した場合は、入場をおことわりする場合があります。

駐車場 中央公民館、市役所前、テラス沼田立体駐車場

(テラス沼田立体駐車場をご利用の方は駐車券を会場までお持ちください。)

主催 沼田市教育委員会

問い合わせ 社会教育課社会教育係 TEL0278-23-2111(内線3333)

KEIICHI TAKASAWA

入場
無料

高沢圭一展

アーティスト紹介

高沢圭一 (1914年～1984年)

※敬称略

大正3年(1914)沼田市西倉内町で生まれる。昭和元年、沼田尋常小学校尋常科卒業後、13歳で上京する。昭和11年、日大芸術学科中退。昭和12年陸軍上海報道部に勤務する。昭和14年聖戦美術展に『突撃路』(100号)出品し、朝日新聞社賞を受賞する。その頃、藤田嗣治の知遇を得る。

終戦後は、小説などの挿し絵を描く傍ら美人画の制作に没頭。各地で個展を開催。昭和49年、高沢氏60歳の時、パリのヴァンドーム画廊でパリ展「花と蝶」を開催し話題を集める。以後、銀座で毎年個展を開催。翌年(昭和50年)、フランス国際公募展に『紅』(25号)を出品しル・サロン賞を受賞する。昭和50年から57年まで、雑誌「婦人公論」の表紙絵を担当する。

白く透き通った肌、細い首すじ、華奢で可憐な女性を描き、着物姿の女性の醸し出す美しさを追い求め、稀有な美人画として多くの人を魅了する。

美人画以外の分野でも、HONDA 創業者の本田宗一郎と交流があり、初期のオートバイ(昭和27年発売)のデザイン顧問として携わった。昭和51年、随筆『絵になる女』で第1回日本随筆家協会賞を受賞するなど、多方面で活躍した。主な著書に、『高沢圭一画集』(1977年大日本絵画巧芸美術)、『高沢圭一自撰作品集』(1984年あすか書房)などがある。

講演会

日時：平成30年9月9日(日)14時～

会場：沼田市中央公民館4階ホール

講師紹介

おかべ まさゆき
岡部 昌幸さん(群馬県立近代美術館 館長)

1957年横浜生まれ。早稲田大学第一文学部美術史専攻、同大学院で学ぶ。現在、帝京大学文学部史学科、大学院文学研究科日本史・文化財学専攻教授。群馬県立近代美術館館長を兼任。西洋近代および日本近代美術を専攻。リヴィジョニズムとグローバル・アート・ヒストリーの視点で、特に世紀転換期のアメリカ美術、アール・ヌーヴォー・アール・デコなど装飾美術、ジャポニスム、写真史などを研究。主著に『JAPAN ロバート・ブルーム画集』(芸術新聞社)、『レンブラントとフェルメール』(新人物往来社)訳書に『エドウィン・アーノルド著 ヤポニカ』(雄松堂出版)、『すぐわかる作家別西洋絵画の見かた』『すぐわかる作家別水彩画の見かた』(東京美術)など多数。「プーシキン美術館所蔵イタリア・バロック絵画」展、「生誕120年川端龍子展」、「生誕100年林武展」、「生誕100年宮本三郎展」、「ジャポニスムのテーブルウェア」展等100以上の展覧会の企画監修を行う。

